

# ことのは

12月号



## <目次>

- |              |            |           |
|--------------|------------|-----------|
| 1. 地域ケア会議参加記 | 3. 専門講座参加記 | 5. 理事会議事録 |
| 2. 吃音キャンプ    | 4. 紹介コーナー  | 6. お知らせ   |

## 地域ケア会議への挑戦 ～え？こんな自分が行政会議に？～

沖縄リハビリテーション福祉学院  
大濱貴之

私が地域ケア会議に初めて出席したのは4年前(2015年)の5月でした。

地域包括ケアシステム構築の掛け声のもと、私の地元である浦添市でも地域ケア会議を定期開催(1回/月)することになり、言語聴覚士の派遣依頼に応える形で出席したのが始まりです。

今回は私が初めて地域ケア会議に出席した日を振り返るとともに会議で言語聴覚士に求められる事は何か私見を綴りたいと思います。

初めてケア会議に出席した日の事は今でも鮮明に覚えています。市役所の会議室にはコの字型にテーブルが並べられ、後方には一般傍聴席が25席程用意されていました。

「ああこれから約2時間この部屋で言語聴覚士を背負って発言するのか…。」

「やっぱ帰りたい。」

まず頭をよぎったのはこんな気持ちでした。もちろん逃げ出す事など許されずスタッフに言われるままに着席し“その時”を静かに待ちました。定刻となり司会者によって“その時”が来たことが告げられ、私の地域ケア会議デビュー戦が始まりました。

地域ケア会議は市町村単位で実施することが決められていて、各市町村で運営方法や開催概要、出席する専門職や行政担当者が変わってきます。浦添市の場合、言語聴覚士のほかに理学療法士、作業療法士、歯科衛生士、管理栄養士、薬剤師の専門職が招聘されています。それに加えて浦添市いきいき高齢支援課職員、地域包括支援センター職員も出席し約10名程度の構成で会が進めてられていきます。

会の大きな流れとしては、市内在住で介護保険サービスを受けている高齢者ケースについて、その方が地域で安心・安全かつ健康に生活する為には何が必要かを専門職も含めて検討し、その内容をケース担当ケアマネージャーに持ち帰ってもらうという感じでした。進行に沿って言語聴覚士の発言機会が与えられ専門的知識に基づいて意見を述べます。これを大体3ケース回します。1ケースあたりの発言時間は約3~4分。言語聴覚士に求められる専門的知識は発声発語障害、失語高次脳機能障害、聴覚障害などによるコミュニケーションの問題や摂食嚥下に関連する問題がメインです。これらを限られた時間の中でわかりやすく伝えるのはなかなか難しい。

こんな大役が自分に務まるのであろうかと不安でいっぱいになっている中、とうとう発言する機会がやってきました。すると…意外と口が回る。不安とは裏腹にそれっぽく事がスルスルと口から飛び出て行くではありませんか。1ケース…2ケース…3ケース…気付けば会議は終わっていました。「どうにか無事に終わった…」という安堵感と、「こんな自分でもちゃんと意見を言えた！！」という自負感で胸がいっぱいになり、頂いた交通費で缶ビールを買って自宅で妻と祝杯を挙げたのは良い思い出です。

デビュー戦を通して分かったのは「行政主催の会議」という響きがハードルを上げているが、ある程度の臨床経験があれば自然と発言できるという事です。3~4年程度の臨床経験があり、カンファレンスや担当者会議に一人で参加できる言語聴覚士であればそのキャリアで十分に役割を果たせると思います。

そう。地域ケア会議のハードルはさほど高くはないのです。

現在、ST県士会に派遣依頼がきている市町村は延べ9つあります。これからさらに派遣依頼が増える見込みです。この参加記を読んで興味を持った会員の方がいましたらぜひ一緒に活動しましょう！！あなたの経験と知識と勇気が地域の発展に繋がります。

いつか地域に貢献したい！！言語聴覚士として地元市町村と関わりたい！！そう思っているあなた、お気軽に、本当にお気軽に県士会事務局までメールを下さい。

最後に、私が大切にしていることばのひとつを記してペンを置きたいと思います。

「置かれた場所で咲きなさい」

今あなたが置かれた場所(地域)で、もうひとつの花を咲かせてみませんか？

## ～第4回吃音親子キャンプ IN 沖縄～

平良 和

第4回吃音親子キャンプ IN 沖縄が、令和元年11月16日～17日の一泊二日、糸満青少年の家で開催された。参加人数は四回の中では一番少ない50名であったが、子供のみならず、親、スタッフ全員がキャンプの主演になり、一人一人の変化が見えたキャンプになったと感じた。1泊2日で、人はこんなにも変わるものなのか。これは、沖縄のキャンプのモデルになっている滋賀のキャンプでも同様であるが毎回不思議に思う。「ムーミン谷の3間」という言葉を聞いたことあるだろうか。ムーミン谷の作者は、「仲間」「時間」「空間」この3間を意識して作品を仕上げていると聞いたことがある。おそらく、キャンプの中にもその3間があるのではないかと感じる。今年初めて参加した小学校3年生の作文の中に、「キャンプに来て、私だけじゃない。こんなにもどもる人いることを知って安心した」ということが書かれていた。これはこの子に限ったことではなく、毎回このような発言をする子がいる。どもる仲間がいて、同じ空間で1泊2日という時間を過ごすことは、こどものみならず、親、スタッフにとってとても有意義で価値のあることだと思う。

最近「SDGs」という言葉をよく耳にする。これは、2015年9月の国連サミットで採択された「持続可能な開発のための2030アジェンダ」に記載された国際目標のことだ。持続可能な世界を実現するための17のゴール、169のターゲットから構成されている。地球上の誰ひとりとして取り残さないことを誓っている。それを知った時に、言語訓練が頭をよぎった。吃音の治療をすることは、持続可能な目標なのか。キャンプのプログラムには治す、訓練をするというようなプログラムは一切ない。自分の吃音と向き合い、自分の子育てと向き合い、自分の臨床と向き合う中で、実現可能な目標は何なのかをそれぞれが真剣に語り、対話を繰り返しその語りを通して気づくことが多くある。2025年、医療が大きく変わる。医師会、看護協会の中でも「医療モデルから生活モデル」へどんどん変わってきている。吃音も同じく「医療モデルから教育・生活モデル」への移行がこれからは必要になってくると身をもって感じる昨今。今回のキャンプにはそのモデルが詰まっていた。



## 「高次脳機能障害、発達障害、認知症にみる障害の 神経心理学的な理解と支援」の講座を受けて

ST 5年目

今回、坂爪先生による専門講座を受けて、高次脳機能障害、発達障害、認知症などの障害に対して支援するうえで、様々な側面からの理解を深めていなければならないと再確認することができました。

支援するうえで評価とは重要な部分であり、評価の視点(行動、能力、機能)については理解していたつもりでした。しかし、講座を受けながら普段の臨床にてこの視点で診ることが出来ていたのか？ここまで機能を深く掘り下げて診ていたか？と「具体的な支援できる水準まで」理解をできていなかったかもしれないと感じました。

今回の講座で学んだことから、対象者の「理解」を深め「より良い支援」ができるようにしていきたいと思います。また、ご家族や周りの支援者とも理解を共有していけるように日々の業務に取り組んでいきたいと思います。

## ～病院紹介～

### \* 大道中央病院

当院は一般病棟と回復期病棟があり、主に回復期中心の病院です。現在 ST10 名 そのうち女性 3 名、男性 7 名と ST では珍しく男性の多い職場となっています。メンバーも楽しい方ばかりで働きやすい職場です。今後事業拡大もあり、ST 大募集中です。





## ～病院紹介～

### \* 沖縄リハビリテーション病院

私たちの病院は沖縄市の泡瀬干潟の近くに位置しており、ライカムイオンモールをずっと下に降りて行ったところにあります。8階建ての病院からは泡瀬の穏やかな海が見え、近くに沖縄県総合運動公園があります。当院はリハビリテーション科、整形外科を中心として脳神経外科、内科、精神科などの診察を行っている病床 199 床の回復期病院です。リハスタッフは PT97 人、OT77 人、ST34 人で ST の対象患者の主疾患としては多いものから高次脳機能障害、嚥下障害、構音障害、認知症の順となっています。

ST の配置は病棟、外来、訪問、デイケア、老健、などがあり最近では短時間通所も加わりました。短時間通所リハは介護保険を用いた 1～2 時間の通所リハで、個別リハ、集団リハ、自主レ指導などを行います。住み慣れた地域で本人の希望した役割を担い、出来る限り自立して日常生活を営めるよう支援しており、「カラオケで歌いたい」「安全に外出する」など本人のニーズから、活動・参加を見据えた目標設定を行います。

また、当院の回復期病棟では、運転再開を希望される方も多く、ドライビングシュミレーターを用いて、選択性注意や複雑注意、道路での危険予測などを評価し最終的に自動車学校で実車評価を行ってまいります。電車のない沖縄では車の運転は日常生活や社会参加に直結しているなど感じる事が多く、基準に届かない患者様に対しての訓練やアプローチで悩みながらも、出来るだけ患者様の希望に添えるよう日々取り組んでいます。

最後に当院は 2020 年に新病院が完成する予定となっております。新しい環境となりますが、ハード面だけでなくソフト面も常に更新していけるよう技術や知識を磨き、さらなる地域貢献を目指し精進していきます！



令和1年9月12日(木)

出席者:久志、玉城(亮)、大瀨、崎原(寿)、川満、  
玉城(慶)、當山、崎原(盛)、大城、立和名

記録:宮城

## 沖縄県言語聴覚士会 理事会議事録(9月)

### 【報告事項】

1. 学術局から
  - 9/29開催の「症例検討」の報告について
    - ➡ 立和名さんのアドバイザーの代理を澤岬さんへ依頼。当日はプログラム通りに進行。
  - 10/27開催の専門講座について
    - ➡ 懇親会が未決定。通例の居酒屋が予算の都合で使用できないため、他の場所を検討中
  - 2020年度の学術集会について
    - ➡ 10月日曜開催予定とし、発表は口述3大+ポスター10題。場所については各市町村福祉センターor 社協にて実施。
  - 吃音キャンプの生涯学習プログラムポイント取得対象申請について(令和1年11月16日~17日)
2. 社会局から
  - なごみ会:県民健康フェアについて
    - ➡ STの参加は7名、学生3名。子ども職業体験を中心に行ったため、通年より相談件数は減ったが、当日は7件の相談(小児、構音等)があった。また、参加者が少ないため、今後とも協力をお願いします。
3. 事務局から
  - 失語症者意思疎通支援事業委員会の口座開設を申請し、近日中に了承される見通し。
  - 沖縄県がんのリハビリテーション推進委員会からの協賛依頼分について
    - ➡ 協賛金一口:一万円を、一口:2万円として調整する。
  - 沖縄県入退院支援連携デザイン事業第1回中部圏域調整会議の報告について
  - 九州地学術集会・長崎大会について➡発表は成人2例、小児1例。
4. 地推会から
  - 導入研修については令和2年1月26日を予定。資料、教材はST協会へ確認し、推奨されている流れで実施していく。
5. 失語症者意思疎通支援事業委員会から
  - 10月に養成指導者講習へ2名参加(久場、平良)。アンケートについては返信済み。
6. こども委員から
  - 他職種交流会について
    - ➡現在30名前後の申し込みがある(助産師、看護師等)。必要経費については予算案を作成し会計へ提出後に理事会へ。
7. その他
  - 組織図の元号が平成となっているので令和へ変更する。
  - 第22回 ST 国家試験の日程➡令和2年2月15日(土) 合格発表:3月26日(木) PM2:00

### 【議題】

- ことのはについて
    - ➡ことのは自体を刷新することを念頭に、今後は3ヶ月ごとに発行しPDFデータをメールにて配信。
  - 非日本語話者対応リストについての協力願いについて
    - ➡ 各病院・施設に対して、非日本語話者に対応できるSTの在籍の有無や、どの程度(日常会話、訓練可能)の介入を行っているかのアンケートを作成する。作成にあたっては協会へアンケートのひな形があるか確認。アンケート実施後は各病院・施設に対して公開するかの打診を行う。
- 会員数:266名[2019/9/2現在](新規0名、変更2名、退会0名)※カッコ内は含めない人数です。

次回の理事会 10月3日(木) 19:30~ 場所:翔南病院

令和1年10月3日(木)

出席者:久志、崎原(寿)、當山、崎原(盛)、大城、立和名

記録:立和名麻美

## 沖縄県言語聴覚士会 理事会議事録(10月)

### 【報告事項】

#### 1. 学術局から

- 9/29 症例検討会:参加者 24 名
  - 部屋の音響が故障で使えなかった。学術局でケーブルを何種類か準備するか検討する。
  - FACEBOOK で実施報告済みである。
- 10/27 専門講座について
  - 前日 26 日に懇親会が 19:30~開催される。学術局員が数名参加予定で、理事の参加もお願いしたい。
  - 学術局員の懇親会参加費を県士会の予算から一部/全額負担できないか検討してほしい。

#### 2. 社会局から

- なごみ会:9/29 会議に参加した。
  - 県民健康フェアの参加者は約 1,000 人であった。各団体の負担金は¥20,000 になる。
  - 子ども向け職業体験は 75 名参加があった。大人向けもあったら良かったとの意見もあった。
  - コンベンションセンターよりゴミの置き去りについて苦情があった。
  - 来年は 9/5・6 で会場を仮予約している。(8/29・30 はキャンセル待ち。お盆は 8/31・9/1)
  - 10/29 幹事会が開催される。久志さんが幹事会のみ参加予定である。
- 10/2:社会局の集まりを実施し、『ことのは』について話し合いを行った。
  - 12/20 の発行をめどに作成を進める。内容は、10 月末の専門講座の参加記、各委員会の報告、地域ケア会議のアドバイザー参加記(浦添の大濱さんに第 1 回目をお願いする)、病院紹介を予定。年会費の案内も載せる。次回の病院紹介は大浜第二、沖縄病院の予定。
  - レイアウトは沢岬さん、病院紹介は末吉さんと知念さんと担当する。城間さんは部員として在籍して下さる。
  - 社会局のパソコンがないので、各自手分けして作成予定である。
  - ネーミング変更に関しては来年度から検討する。12 月発行分は『ことのは』で発行する。
  - ホームページと FAX で配信する予定。メールでは URL のリンクを貼る。

#### 3. 事務局から

- 特に報告事項なし。

#### 4. 各委員会から

##### ◎地推会

- WEB 会議で実施した。
- 北部地区の平安山さんのことを名護市に申し送りし、崎浜さんへお願いしていたが ST 担当分を歯科衛生士さんで担当しているとの情報がある。地推会で確認する。

##### ◎失語症者意思疎通支援事業委員会

- 9/26 に準備委員会を実施し、先進地視察についての話し合いを行った。佐賀県が候補で 6 名送る予定。
- 10/26・27 に平良さん、久場さんが支援者養成講習を受講する。今年で 5 名の養成者を確保できる予定。

##### ◎子ども委員会

- 10/5:ちゅうざん病院で他職種交流会を予定している。

#### 5. その他

- CNS 勉強会が 10/17 に行われる。ST にも参加してほしいとのこと。ホームページに掲載する。

### 【議題】

#### 1. 委員会と研究会の予算について

- 各部署の用途や申請、報告の仕方が統一されていない。活動費の金額にも差がある。
- 大城さんが案を作成し、来月の議題として再度話し合う。

### 【その他】

会員数:267 名 [2019/7/12 現在] (新規:0 名、変更:2 名、退会:0 名) ※カッコ内は含めない人数です。

次回の理事会 日時:11月14日(木) 19:30~ 場所:翔南病院

令和1年11月14日(木)  
出席者:久志、玉城(亮)、大瀨、崎原(寿)、川満  
玉城(慶)、崎原(盛)、大城、立和名  
記録:宮城

## 沖縄県言語聴覚士会 理事会議事録(11月)

### 【報告事項】

#### 1. 学術局から

- 10/27 専門講座について
  - 参加人数:総数 57 人・非会員 5 人(OT1人、Ns1人、ST 非会員 2 人、学生 1 人)
  - 反省点 5 点報告、
    - マイクの音響について、講師の送迎について、質疑応答の時間配分についてなど。
  - アンケートの報告(研修会についての要望など)
    - 失語症者の QOL について、日常業務などの悩みの共有、呼吸器に関する実技の実施。

#### 2. 社会局から

- 『ことのは』の発行について
  - 現在発行に向けて作業進行中で、12 月中旬に発行予定(内容については 10 月議事録参照)。
- 沖縄県歯科 SUN 会議について
  - 2/1(土)開催予定。場所:沖縄県口腔保健医療センター  
講演:障害特性とお口の関わり 催事:口腔機能ゲーム、歯ブラシづくり etc…

#### 3. 事務局から

- 次回理事会にて報告。

#### 4. 各委員会から

##### ◎地推会

- 11/29 会議予定。研修会などについて学術と振り返りや、導入研修の企画などを進めていく。

##### ◎失語症者意思疎通支援事業委員会

- 11/1 に準備委員会実施。11/29,30 に先進地視察(佐賀県)を予定。年度内は1月、3 月も先進地視察を予定しており、いずれも佐賀県を予定。来年度から研修を行えるようシステム構築を行っていく。
- 先進地視察に関連して、職場への職員の派遣依頼に関する公文書の発行について。→県担当者へ確認。

##### ◎子ども委員会

- 次回理事会にて報告(内容については参他職種交流会について。参加者:38 名)。

#### 5. その他

- 会長会議報告。
  - ST 協会 20 周年式典における表彰者の候補者選定について。
  - 非日本語話者対応リストについて。
  - 生涯学習プログラムに関する変更について。
  - 診療報酬改定について(関連団体の今年度の要望について厚労省に報告。)
    - 主要な要望:脳血1の要件に ST 配置追加、早期リハ加算に ST 追加、呼吸器リハへの ST 参入など。
- コンソーシアム事前会議報告
  - R2 年 1/18 に開催予定。リハビリ領域では運動器疾患で事例を提出予定。
- 日本言語聴覚士協会の代議員に久志さんが立候補し受理された。
- 会長の動向報告
  - 11/5 に、地域ケアマネジメント業務相談アドバイザー・市町村支援事業促進長会議へ参加。会議において、11/26 に、地域包括支援センター職員向けに説明会を開催予定とのこと。
- 「第 16 回 沖縄県介護支援専門員研究大会」協賛について。開催:令和 2 年 2 月 20 日(木)

### 【議題】

#### 1. 年賀状送付と総会資料送付に関する業務について

- 今後は事務局での対応としていく。また、年賀状を送付したい人がいれば名簿とアドレスを提出。

#### 2. 委員会と研究会の予算について

- 税理士などと相談し、来年度に向けて財務で調整行っていく。

#### 3. 来年度の「言語聴覚士の日」イベントについて

- 予算が 50 万円あり、使途は基本自由なため、どのようなイベントを行うかアイデア募集。今後検討。  
例)全島エイサーでの広告 etc…

会員数:267 名 [2019/7/12 現在] (新規:0 名、変更:2 名、退会:0 名)※カッコ内は含めない人数です。

次回の理事会 日時:12 月 12 日(木) 19:30~ 場所:翔南病院



## ～事務局より～

### \* 会費納入のお願い

<年会費>

正会員 5,000 円 《言語聴覚士有資格者》

準会員 1,000 円 《言語聴覚障害・発達障害領域に関わる関連職種の方、学生》

振り込み先:下記のいずれかにお振込みください。

**琉球銀行** 与那原支店601 普通 □座番号:578596

加入者名:沖縄県言語聴覚士会

**沖縄銀行** 与那原支店202 普通 □座番号:1599723

加入者名:沖縄県言語聴覚士会

<送付先>

沖縄県言語聴覚士会事務所

〒902-0067

沖縄県那覇市安里51番地 地域密着型複合施設 百穂苑内

E-mail:jimu@st-okinawa.org

Fax:020-4623-6525



## ～社会局より～

\* 社会局部員募集中です!!!

主にことのはの発刊作業、ST フェアの開催などです。

興味のある方は下記アドレスまで連絡ください。

社会局 <shakaikyoku@ml.st-okinawa.org>

## ～発行先～

発行元:沖縄県言語聴覚士会 社会局

編集人:社会局委員

県士会メールアドレス:jimu@st-okinawa.org